

2024/5/26

ルカの福音書 講解メッセージ⑦

『ルカの福音書 3 章 18-38 節 「苦しみ」について』

■苦しみとは

私たちがこの地上において苦しみを負うのはなぜでしょうか。それは、人の本質が、永遠なる神によって造られているからです。そのため、人はこの世界にいる限り苦しみが生じます。しかし、このことに気づくことが、神にとどまるカギにもなります。苦しみこそが神と私たちを結び付ける接点になるのです。ですから、苦しみは宝でもあります。

「ヨハネは、そのほかにも多くのことを教えて、民衆に福音を知らせた。さて国主ヘロデは、その兄弟の妻ヘロデヤのことについて、また、自分の行った悪事のすべてを、ヨハネに責められたので、ヨハネを牢に閉じ込め、すべての悪事にもう一つこの悪事を加えた。」（ルカ 3:18-20）

バプテスマのヨハネは、ヘロデの罪を責めました。罪を責められるとつらくなります。つらくなったヘロデは、神に悔い改めるのではなく、ヨハネを牢に閉じ込めるという選択をしました。

私たちも同様に、罪を犯すと心の中で神に責められ、つらさを覚えます。その時、私たちには二つの選択肢があります。一つは、罪を認めて神に赦しを乞うという選択、もう一つは、罪を認めることなく無視するという選択です。

「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。」（Ⅰヨハネ 1:8-10）

神が罪を責める目的は、私たちを赦すためです。赦すとは、神との関わりが深くなるということです。神は私たちと形式的に交わるのではなく、深い関係を築きたいと願っておられるのです。

罪とは、悪い行いだけを指すものではなく、心が神に向かない状態、神を知りながら神を無視する状態のことです。聖書が教える「罪」には、「罪の状態」と「罪の行い」とが含まれます。聖書では、単数形の「罪」は、罪の状態にあることを示し、複数形の「罪」は、罪の行為を犯すという行いを表しています。つまり、人は罪の状態にあるために、罪の行いを犯してしまうのです。日本語にはこの区別がありませんので、少々理解が難しいところです。

そもそも罪とは、神と分離した状態、つまり心が神に向いていない状態を表します。この状態は、人にとって苦しみという感情になります。苦しみの根本は、心が神に向いていないことなのです。ですから、苦しみの原因と思われる問題を解決しても、心が神に向かない状態を改善しない限り、苦しみは解決しません。その理由は、人が神に似せて造られたからです。神は愛です。愛とは、結びつく運動のことです。つまり、人は愛に生きるように造られており、神は私たちと一つになろうとしておられます。それを拒むと苦しみが生じるのです。この状態が罪です。ですから、「罪を言い表す」ということと「苦しみを神に言い表す」ということは、同じ意味になります。イエス・キリストが、「あなたがたの重荷を私のもたせてきなさい」と言われたのは、苦しみを神に言い表すことが、罪を言い表すのと同じことだからです。苦しみを神の前に差し出し、神に助けを乞えばよいのです。それが、神が私たちに望んでいることだからです。

苦しみは、心が神に向いていないしるしです。心が神に向いていないとは神の約束が信じられないということで、だから、苦しさを感じているということです。神を信じるとは、神と関わりを持つことです。そして、その関係をさらに深めていくことが、信仰から信仰へと進むということになります。また、私たちの土台は愛ですから、人を憎んだり嫌ったり、一つになる運動に反することをすると苦しくなります。ですから、兄弟を憎みながら神を愛するということとはできません。気の合わない人に出会った時も、愛せるように祈り続けることが、神との距離を縮めていくことにつながります。

■苦しみからの解放

「罪を犯している者はみな、律法に違反しています。罪とは律法に違反することです。」（Ⅰヨハネ 3:4）

聖書が教える罪には、「罪の状態」（単数形）と「罪の行い」（複数形）の 2 種類の

罪があります。「律法に違反する罪（逆らう罪）」は、単数形です。律法とは神の言葉のことです。つまり、これは神の言葉を信じない、神と分離した状態のことを指します。この罪があるために、様々な悪い行いをしてしまうのです。

心が神に向かない状態は苦しいものです。心が神に向かず、神の命令に従えない、だから苦しい——この状態が罪です。その時、人は、罪を認めて神に助けを乞うか、罪を閉じ込めて苦しみを見ないようにするかに進むことができますが、残念なことに、多くの人は後者を選択してしまいます。この世の楽しみを見つけて、今が楽しければいいじゃないかと、苦しみから目をそらそうとするのです。これが罪の行為です。なぜなら、この世の楽しみや安全を目指せば目指すほど、富、評判、比較などによって、争いが生じるからです。つまり、苦しみを隠すことによって罪の行為が生じるのです。このことを解決するために、イエス・キリストはこの世に来られました。

「あなたがたが知っているとおり、キリストは罪（※複数形）を取り除くために現れたのであり、この方のうちに罪（※単数形）はありません。キリストにとどまる者はだれも、罪を犯しません（罪を犯すという動詞）。罪を犯す者（罪を犯すという分詞）はだれも、キリストを見たこともなく、知ってもいません。」

（Ⅰヨハネ 3:5-6）

「この方のうちに罪はない」とは、状態の罪を指しますが、そうであるのは、この方が神であるからです。「罪を犯す者はキリストを見たことがない」とは、その人はまだ神と分離した状態であるということです。

神を受け入れていても、私たちは皆、心が神に向かないという問題を抱えています。神と再び結びつき、永遠のいのちを持っているので、必ず天国に行くことはできますが、この地上において平安がないということです。これをなんとかするためにキリストは来られたのです。

「罪（※単数形）を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。」（Ⅰヨハネ 3:8）

悪魔とは、死をつかさどる者です。初めから神と分離したものであって、この状態が死です。神のいのちによって造られた私たちが、なぜ神とかかわりがない状態で生まれてきたのか、それは、悪魔の仕業によって死が入り込んだからだ聖書は教えて

います。そのため、神と分離した者は悪魔から出た者だと書かれているのです。

神が来られた目的は、私たちと再び結合するためです。私たちは神と共に生きるように造られており、平安になるように造られているのに、そのことを知らず、心がなかなか神に向かないことが私たちの苦しみになっています。もし、この苦しみを神に告白するなら、その時、私たちの心は神に向いています。これが恵みなのです。ですから、苦しみは心を神に向けさせてくれる宝になるのです。そのことに気づけば幸いです。信仰に生きる人たちは、みな共通してそのことに気づいています。

「神から生まれた者はだれも、罪（※単数形）を犯しません。神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」（Ⅰヨハネ 3:9）

神の種とは永遠のいのちです。神と再結合した者は、神と分離することは決してありません。「罪を犯すことはできない」とは、罪の状態にはなくなったという意味です。これに対して、この少し前に次のように教えられています。

「もし、罪はないと言うなら、私たちは自分を欺いており、真理は私たちのうちにありません。もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます。もし、罪を犯してはいないと言うなら、私たちは神を偽り者とするのです。神のみことばは私たちのうちにありません。」（Ⅰヨハネ 1:8-10）

「罪はないと言うなら嘘つきだ」という言葉は、一見、「罪を犯すことができない」という御言葉と矛盾するように思えますが、原文で読むと、はっきり単数形と複数形に分かれていて、神との結びつきを失うことは絶対にないが、心が神に向かない状態になると、どうしても罪の行為をしてしまうという意味だということが分かります。そして大切なことは、神はそれを赦すから、その苦しみを言い表しなさいと言われていたということです。

私たちは悪魔の仕業で神と分離した状態で生まれてきました。聖書はこの状態を死人と言っています。最後は滅びるしかないからです。そこで神が来られて、神の呼びかけに応答した者に永遠のいのちを与え、救ってくださいました。そして、一度救われたら、その救いが取り消されることは絶対にありません。しかし、永遠に生きることが決まってもこの世界は滅びるため、クリスチャンであっても死の恐怖を覚えます。

私たちはこの世に生きる限り、永遠の世界とこの世との矛盾に苦しみます。この苦しみは、神に心を向けることでしか解決しません。これが罪と戦うということです。苦しみを覚えるのは、心が見えるものに惑わされて矛盾を覚えたということですから、心を神に向け神の言葉にとどまる戦いをしてほしいのです。罪と戦うとは、不信仰と戦うということです。人と争ったり、見える部分を行いで改善したりすることではありません。この世界は神の言葉と対立しており、クリスチャンは皆神の国との矛盾に、苦しみを覚えます。その時、神に心に向けて神の言葉にとどまろうとすること、これが苦しみとの戦いです。あなたの苦しみを解決できるのは、イエス・キリストしかおられません。神の言葉にとどまるしか解決はないのです。

クリスチャンになっても心が神に向かない理由の一つは、神に愛されている自分が見えないからです。見える世界を中心にしている私たちは、目と耳で確認できないことに惑わされてしまって、神の愛を見失ってしまうのです。そのために、イエス・キリストは十字架に架かってくださいました。神は、私がどれだけあなたを愛しているのかを示すため十字架に架かったと教えています。そして、永遠のいのちを見せるために復活してくださいました。

私たちは、神と結合しましたが、神が信じられず、この世の愛を求めて生きています。そのような中途半端な生き方は、結局平安にはなれません。聖書が、神と富の両方に仕えることはできないと教えているのは、キリストを求めない限り、平安はなく、苦しみが継続するばかりだからです。キリストがいのちであり、キリストがすべてであることに、しっかりと心が向くようになること、これが私たちの目指す道です。それがこの世に対して死ぬということであって、この世の富や名声はちりあくただと気づくことができれば幸いです。

「兄弟を憎む者はみな、人殺しです。いうまでもなく、だれでも人を殺す者のうちに、永遠のいのちがとどまっていることはないのです。キリストは、私たちのために、ご自分のいのちをお捨てになりました。それによって私たちに愛がわかったのです。ですから私たちは、兄弟のために、いのちを捨てるべきです。」（Ⅰヨハネ 3:15-16）

キリストが私たちのためにいのちを捨ててくださったとあるのは、神に愛されていることがわからないことが、私たちの苦しみの原因だからです。この愛を知って、兄弟を愛せるようになると、苦しみから解放されます。あなたの苦しみの答えは、イエ

ス様の十字架です。

■神の子イエス・キリスト

「さて、民衆がみなバプテスマを受けていたころ、イエスもバプテスマをお受けになり、そして祈っておられると、天が開け、聖霊が、鳩のような形をして、自分の上に下られるのをご覧になった。また、天から声がした。「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」」（ルカ 3:21-22）

イエス様が洗礼を受けたのは、人として来られたので、人としてどう生きるべきか模範を示してくださったからです。そしてイエス様は洗礼を受けてから、公に伝道を開始されました。洗礼は、人生の区切りを公に宣言することです。結婚式と同じです。私たちは、キリストの花嫁となりました。

「あなたは、わたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ。」とは、キリストへの言葉であると同時に、私たち一人一人に語られている言葉でもあります。あなたも神が愛する子です。あなたが洗礼を受けることを神は喜んでおられます。

「教えを始められたとき、イエスはおよそ三十歳で、人々からヨセフの子と思われていた。このヨセフは、ヘリの子、順次さかのぼって、マタテの子、レビの子、メルキの子、ヤンナイの子、ヨセフの子、マタテヤの子、アモスの子、ナホムの子、エスリの子、ナンガイの子、マハテの子、マタテヤの子、シメイの子、ヨセクの子、ヨダの子、ヨハナンの子、レサの子、ゾロバベルの子、サラテルの子、ネリの子、メルキの子、アデイの子、コサムの子、エルマダムの子、エルの子、ヨシュアの子、エリエゼルの子、ヨリムの子、マタテの子、レビの子、シメオンの子、ユダの子、ヨセフの子、ヨナムの子、エリヤキムの子、メレヤの子、メナの子、マタタの子、ナタンの子、ダビデの子、エッサイの子、オベデの子、ボアズの子、サラの子、ナアソンの子、アミナダブの子、アデミンの子、アルニの子、エスロンの子、パレスの子、ユダの子、ヤコブの子、イサクの子、アブラハムの子、テラの子、ナホルの子、セルグの子、レウの子、ペレグの子、エベルの子、サラの子、カイナンの子、アルパクサデの子、セムの子、ノアの子、ラメクの子、メトセラの子、エノクの子、ヤレデの子、マハラレルの子、カイナンの子、エノスの子、セツの子、アダムの子、このアダムは神の子である。」（ルカ 3:23-38）

「アダムは神の子」とあるのが結論で、要するに、イエスは神の子であるということが強調されています。私たちも神の子ですが、イエスは人として来られた神の子であると示すことで、神が私たちのために助け主を送られるという約束が成就されたことを証しているのです。

「しかし、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことを知っています。それで私たちは、真実な方のうちに、すなわち御子イエス・キリストのうちにいるのです。この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。子どもたちよ。偶像を警戒しなさい。」（Ⅰヨハネ 5:20-21）

イエス・キリストが神であるから、いつもイエス・キリストを第一とし、そこに心を留めて生きていきなさいということです。そこから離れると、苦しくなってしまうからです。キリストを中心にものごとを考えられるようになると幸いです。

「私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。」（Ⅰヨハネ 5:13）

あなたは神と結びつき、永遠のいのちを持っています。もう神と分離することはできません、ならば、中途半端な生き方はやめて、心を神に向け、罪と戦って生きていきましょう。心が神から離れると、心の苦しみとなって表れます。しかし、その苦しみを神に言い表すなら、神がその罪を取りのぞき、私たちと一つになろうと近づいてきてくださいます。私たちの人生の目的は、どれだけ神に近づき、一つとなることができるかです。神のことばを信じ、永遠のいのちを持っていることを信じることであれば、幸いです。